

私の声は届いていますか？

JSMO 会員アンケートへのレスポンス企画



副理事長
JSMO2026 大会長
田村 研治 先生



学会公式キャラクター じゃすもーくん

作成日:2026 年 3 月

JSMO 会員委員会

はじめに



理事長
南 博信 先生



会員 委員長
鶴谷 純司 先生

<公益社団法人日本臨床腫瘍学会/理事長・南 博信 より>

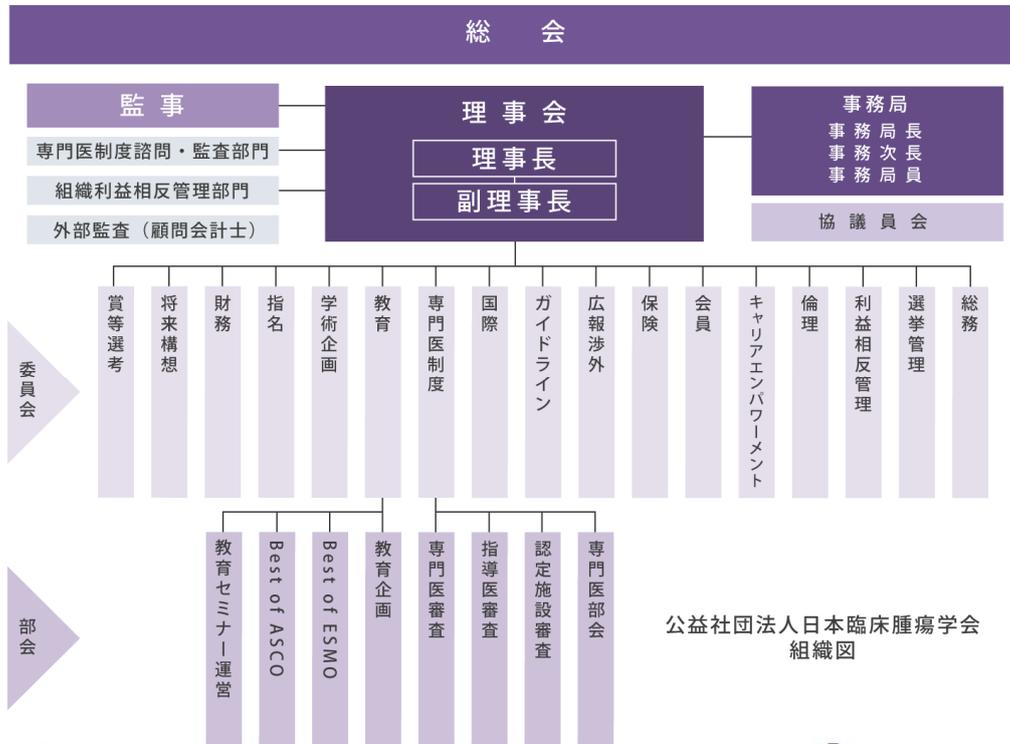
私たちは今後も JSMO の Vision & Mission の実現に向け、会員のニーズにできるだけ応える活動を展開してまいります。この度は貴重なご質問とご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。今後とも JSMO の活動のご支援をよろしく願います。

<今回の企画について・会員委員会より>

会員委員会は JSMO 会員のニーズを的確に把握し、学会の発展と会員数の拡充に繋げることを目的に活動をしています。会員の皆さまが JSMO の取り組みをどのように評価し、JSMO にどのような機能や役割を期待されているのかを明らかにするため、[2014 年よりアンケートを行っています](#)。アンケートの回答率は毎回ほぼ 14%程度で推移しており、ご多忙のなかご協力くださった会員の皆さまに、深く感謝申し上げます。

これまでもアンケートの集計結果は公表してきましたが、その声が理事会にどのように共有され、さらに理事の先生方がどのように考えているのかまでは十分にお伝えできていませんでした。そこで、会員委員会では [2022 年度](#)より皆さまのアンケートをもとに質問を作成し、関連する委員会・ワーキンググループの先生方にお答えいただくという新たな取り組みを開始しました。多くの先生方から真摯かつ丁寧なご意見をお寄せいただきました。

< JSMO 組織図・今回の企画に回答くださった各委員会の先生方 >



理事長/将来構想委員長
南 博信 先生



会員委員長
鶴谷 純司 先生



広報渉外委員長
上野 誠 先生



SNS ワーキンググループ長
北野 滋久 先生



副理事長/JSMO2026 大会長
田村 研治 先生



キャリアエンパワメント委員長
中島 貴子 先生



学術企画委員長
矢野 聖二 先生



専門医部会長/医学生・研修医の
ための腫瘍内科セミナーWG 長
高野 利実 先生



専門医審査部会部会長
林 秀敏 先生

内容

はじめに	2
学会活動全般	5
【Q1】 JSMO 全般の活動について	5
【Q2】 JSMO 全般の活動について	6
【Q3】 若手医師のキャリア支援について	6
【Q4】 臨床腫瘍医の育成・キャリア支援における JSMO の役割	7
専門医試験	7
【Q5】 専門医試験の新規申請時について	7
【Q6】 専門医試験の更新申請時について	8
入会・会員制度	8
【Q7】 JSMO 入会・会員制度	8
【Q8】 JSMO 会員の価値向上と会員数拡大に向けて	9
【Q9】 医師会員数について	9
【Q10】 医師会員数を増やすために	10
【Q11】 メディカルスタッフ会員の参画	11
【Q12】 JSMO2026 におけるメディカルスタッフ向けプログラム会員を増やすために	11
【Q13】 メディカルスタッフ会員入会の手続き	12
【Q14】 メディカルスタッフ会員数増加にむけて	12

学会活動全般

【Q1】 JSMO 全般の活動について

会員アンケートでは、JSMO に対して「適切ながん診療の普及」「臨床腫瘍学の専門家育成」「多職種によるチーム医療の推進」への強い期待が示されました。これらの期待について、理事長・委員長としてのお考えや受け止めをお聞かせください。あわせて、変化の大きい昨今の医療情勢を踏まえ、会員の皆さまへお伝えになりたいメッセージがあればご教示ください。

【回答】

<回答者：南 博信 理事長>

遺伝子異常に対する分子標的薬治療・免疫治療ががん種を越えて導入されていく現状を考えますと、幅広いがん種の治療を経験し理解した専門医ががん薬物療法を担当するとともに周囲を啓発することが必須と考えます。勤務環境によってはがん種や領域の専門性をもつことが必要ですが、あくまでも幅広くがん薬物療法を修得した後で専門性を持つ必要があります。がん薬物療法専門医を核としたチーム医療以外でのがん薬物療法は考えられない世界を皆さんと目指したいと思います。

<回答者：鶴谷 純司 会員委員長>

適切ながん診療の普及や臨床腫瘍学の専門家育成のために、JSMO はがん診療の標準化を目指した診療ガイドラインの作成を行っています。加えて「新臨床腫瘍学」を出版し、腫瘍学に関する幅広い知識とエビデンスを網羅した教科書として長年利用されています。これらの内容を普及するために教育セミナーを e-learning で通年配信し、医療の標準化や専門家の育成に貢献しています。また、がん薬物療法専攻医プログラムを運用し、毎年専門医試験を実施しています。2006年に始まり、2025年までに 1,000 人を超えるがん薬物療法専門医が認定されました。さらに、医師以外の会員数の増加にも注力しており、教育の機会は医師のみならず、薬剤師、看護師などにも届け、多職種によるチーム医療の推進にも貢献しています。学術集会では、多職種のスタッフが共通の課題について学び、活発な議論ができる場を提供しています。

【Q2】JSMO 全般の活動について

JSMO 全般の活動認知には、SNS の重要性が増していると考えます。前回のアンケートサマリでは、SNS-WG がスタートしたこと、第1歩として 2024 年の JSMO 学術集会において SNS-WG 企画によるシンポジウムが開催されることをご紹介いただきました。発足から 2 年間の具体的な活動内容と、現状の手ごたえ・課題などをお聞かせ下さい。

【回答】

<回答者:上野 誠 広報渉外委員長/北野 滋久 SNS ワーキンググループ長>

JSMO2025 では、演者許諾のある指定演題(シンポジウム)のスライド撮影・SNS 投稿を解禁いたしました。JSMO2026 では、指定演題に加え、一般口演セッションにも対象を拡大いたしました。今後対象範囲拡大にむけ、準備を進めていきます。また、JSMO として、[X](#)(旧 Twitter)を中心とした SNS 発信だけでなく、HOKUTO、Medical Note などの医療系メディアと連携し、学会情報の発信を行って参ります。

現状の評価は、難しいところがございますが、学会会員数は現在やや減少傾向にありますが、JSMO の広報活動がプラスになっている可能性があると考えており、さらに本 WG の活動を推進させていただきたいと存じます。

【Q3】若手医師のキャリア支援について

会員アンケートでは、他の領域に比べて新しい専門領域である臨床腫瘍領域において、若手医師のキャリア支援に対する関心が高いことが示されました。今回のアンケート結果をどのように受け止めておられるか、また若手医師のキャリア形成を支援するうえで JSMO として取り組んでいる活動内容等についてお聞かせください。

【回答】

<回答者:中島 貴子 キャリアエンパワーメント委員長>

キャリアエンパワーメント委員会では、会員のキャリアに対する価値観や満足度を高めることができるよう、キャリア相談の場を提供しています(WEB や学術集会会場での”[キャリア相談カフェ](#)“として実施)。[キャリアに関する企画](#)も例年学術集会で行っています。医学生や研修医を対象とした”[腫瘍内科セミナー\(MOS\)](#)“には本委員会委員も参加し、キャリア相談の場をご案内しています。2024 年度はこの MOS から派生した学生・研修医ワーキンググループが発足し、学術集会でのメンバーの発表を本委員会が継続的にサポートする試みが始まっています。ぜひこれらを利用いただき、より有効な活動につながるよう意見をいただければと思います。

【Q4】臨床腫瘍医の育成・キャリア支援における JSMO の役割

臨床腫瘍医の育成やキャリア支援に関して、JSMO が主体的に取り組む領域と、他学会や大学等との連携を意識して進めていくべき領域について、現時点でどのように捉えておられるかお聞かせください。

【回答】

<回答者:中島 貴子 キャリアエンパワーメント委員長>

がん薬物療法専門医制度の維持、向上は本学会の主軸となる活動であると考えています。腫瘍内科という学術・診療領域の確立、若手医師のリクルートについては、Q3 の回答にあるような各委員会活動も継続しつつ、専門医制度委員会や将来構想委員会を中心に、関連学会、大学などと継続的に議論し協働して検討する必要があると考えます。

<回答者:高野 利実 専門医部会長/医学生・研修医のための腫瘍内科セミナーWG 長>

JSMO が取り組む「医学生・研修医のための腫瘍内科セミナー(MOS 春、MOS 夏)」等の腫瘍内科医育成プロジェクトは、他学会にはない先進的なものであり、今後も積極的に展開していきます。ただし、これらのプロジェクトについて全国の医学部生に周知されていない現実もあるため、各大学とも連携し、学部教育において腫瘍内科を取り上げる機会を増やすような働きかけが必要と考えます。また、若手オンコロジスト育成という観点では、疾患特異的な学会(日本乳癌学会等)との連携の可能性はあると考えています。

専門医試験

【Q5】専門医試験の新規申請時について

従来試験での専門医取得を考えておられる医師会員や、これから新専門医制度の下での研修プログラム応募を考えておられる若手の医師会員に向けて、今後の専門医制度の移行計画に関して現時点で決まっている範囲で解説をお願いいたします。

【回答】

<回答者:林 秀敏 専門医審査部会長>

基本的にはこれまでの認定基準を踏襲し、造血器、呼吸器、消化管、乳房の4領域を必ず含む30症例の病歴要約などが必要です(詳細は[がん薬物療法専門医整備基準](#)をご覧ください。)一方で、どの癌種においてもがん薬物療法の進歩は目覚ましく、がん薬物療法専門医に求められているものが20年前のJSMO創設時とは異なっている状況も理解しております。専門医認定基準を緩和することは専門医の立ち位置上難しい一方で、必要な条件(入り口)について今後議論を予定しております。

なお、CBT 試験について、出題数が総論 100 問、各論 100 問の計 200 問が整備基準では定められており、現行の CBT 試験と比して総論数の割合が増加し各論が減少する見込みです。どの臓器を専門とする医師であっても基盤となるようながん薬物療法に関連する知識についてより問われることが期待されます。

【Q6】 専門医試験の更新申請時について

従来の更新試験に関する会員アンケートの意見を踏まえ、がん薬物療法専門医の更新制度の意義や目的をどのように考えておられるか、また今後の制度運用の展望についてお聞かせください。

【回答】

<回答者: 林 秀敏 専門医審査部会長>

がん薬物療法の目覚ましい進歩を鑑みると、がん薬物療法専門医の質の担保のためには更新制度の必要性は依然として高いと考えています。一方でご意見にあったように E-learning のような JSMO 創設時には活用できなかった技術が進歩しており、実際に 2025 年度より、更新 4 回目以降の先生においては WEB 試験における認定が認められるようになっております(詳細はこちらをご覧ください)。今後も専門医の皆さまのご負担と質の担保のバランスを見極めながら、柔軟な運用を検討していきます。

入会・会員制度

【Q7】 JSMO 入会・会員制度

JSMO への入会や会員制度に対する会員の評価をどのように受け止めておられるかをお聞かせください。

【回答】

<回答者: 鶴谷 純司 会員委員長>

近年、がん薬物療法の専門性はますます高まりを見せています。疾患ごとに異なる治療体系の発展や、日進月歩の薬剤開発と臨床導入、診断技術の進歩や精密医療の概念の普及に伴う複雑な薬剤選択、多岐にわたる副作用対策と学際領域の発達等、社会が求めるがん薬物療法専門医像は多彩です。

こうした状況を踏まえて、より幅広いバックグラウンドを有する若手医師に専門医を目指してもらうために、当学会では会員委員会での検討を踏まえ入会制度を見直し、入会申込時に必須としていた協議員による推薦を 2026 年 1 月より不要としました。

今後は入会ポリシーへの同意を前提に、新規入会手続きを簡略化し、より多くの方が円滑に入会できる体制を整えています。

【Q8】 JSMO 会員の価値向上と会員数拡大に向けて

JSMO 入会の付加価値訴求や今後の会員数増加を目指すにあたって、学会として特にアピールしたい点や、今後力を入れていく点があればお聞かせください。

【回答】

<回答者：鶴谷 純司 会員委員長>

がん薬物療法領域が専門医機構により正式にサブスペシャリティ領域として承認され、専門医を目指す専攻医の入会数の増加が期待されます。国内におけるがん薬物療法を専門とする医師数はまだまだ不足しており、社会の要望に答えるためにも専攻医数の増加が喫緊の課題です。今後益々、腫瘍内科医やがん薬物療法専門医を目指す専攻医の入会を促進していきたいと思います。がん薬物療法を専門とする医師像は時代とともに変化を続けており、次世代のがん薬物療法専門医の育成に取り組んで参ります。さらに、継続して会員であることで受ける恩恵や特典として、学会スライドやガイドラインなどの教育資材の提供を行ってまいります。他の学会とは異なるバリューやブランドづくりに注力し、JSMO のブランドイメージ向上にも努めて参ります。

【Q9】 医師会員数について

医師会員増加に向けた課題や方向性について、会員委員会としての受け止めをお聞かせください。

【回答】

<回答者：鶴谷 純司 会員委員長>

厚労省の「医療広告ガイドライン」では、専門医資格を広告として掲げるための要件として、資格を認定する団体の会員数は正会員のみで算定し、その8割以上が当該資格に係る医療従事者であることが求められています。この規定により、がん薬物療法専門医を広告可能とするためには、JSMO 正会員の8割以上が医師である必要があります。

一方、学会に求められる役割として、メディカルスタッフの技能や知識の拡充促進も求められるところであります。このため、両者を共存するために、準会員数の増加に注力します。

【Q10】 医師会員数を増やすために

寄せられた意見の中で、今後医師会員数増加に向けた施策として注目すべき提案があればお聞かせください。

【回答】

<回答者：鶴谷 純司 会員委員長>

がん患者が広く標準的ながん薬物療法の恩恵を受けるために、専門医の存在はきわめて重要です。残念ながら国内のがん薬物療法専門医数は米国、欧州、アジア諸国と比較し、十分とは言えません。医学生や研修医ががん薬物療法専門医を目指す機会を増やし、キャリアエンパワーメント委員会や教育委員会など共同して若手医師の入会を促進して行きます。入会のハードルを取り除き、熱意と希望に満ちた医学生や研修医に門戸を開きます。また、専攻医プログラムの質を落とすことなく、社会が求める多彩で幅広いがん薬物療法専門医が育成されるよう、専門医制度委員会とも共同して会員のリクルートや専攻医数増加に努めてまいります。質の高いがん薬物療法を提供するために専門医の存在がきわめて重要であることを社会に知らしめるように活動を行います。また、2026年度の JSMO の事業をご紹介します。今後もセミナーなどは[ホームページ](#)にて随時告知していきますので、ぜひご確認ください。

1. [2026 年度教育セミナーA・B セッション \(E-learning\)](#)

がん薬物療法専門医資格取得のために必要な知識の教育を目的とし、がん薬物療法の標準治療に関する講演を通じ、質の高いがん薬物治療を臓器横断的に実践できる医師の育成とがん薬物療法に関する幅広い情報の発信のために実施しています。

2. [Best of ASCO 2026 in Japan \(WEB\)](#)

臨床腫瘍医および臨床腫瘍医を目指す医師、がん医療に関わる医療関係者を対象に JSMO と米国臨床腫瘍学会(ASCO)が臨床腫瘍学および癌治療の最新情報を得るための教育コースです。

3. [Best of ESMO 2026 On Demand in Japan \(WEB\)](#)

欧州臨床腫瘍学会(ESMO)年次総会で発表された、世界の最新の臨床腫瘍学及びがん治療に関する注目演題を、日本語でわかりやすく解説するオンラインプログラムです。

【Q11】 メディカルスタッフ会員の参画

JSMOの学術集会において、メディカルスタッフを対象としたプログラムについて、企画・実施を検討されていますか。

【回答】

<回答者： 矢野 聖二 学術企画委員長>

学術集会におけるメディカルスタッフを対象としたプログラムとして、毎年多職種連携プログラム部会、緩和ケア支持療法部会、患者支援・サバイバーシップ部会がプログラムを企画し日本語で実施しています。より参加しやすいプログラムを企画するために引き続きご意見をいただければと存じます。

【Q12】 JSMO2026 におけるメディカルスタッフ向けプログラム会員を増やすために

JSMO2026ではメディカルスタッフ対象の皆さまにお勧めの[プログラム](#)はありますか？

【回答】

<回答者： 田村 研治 JSMO2026 大会長>

JSMO2026では、メディカルスタッフの皆さまに有益なプログラムを多数企画しています。がん看護学会、緩和医療学会、がん生殖学会との合同シンポジウムは、それぞれ、メディカルスタッフに関連する内容となっています。

- シンポジウムでは「がん情報、誰にどう届ける？ ～多職種・多施設・多団体をつなぐコミュニケーション～(SNSWG)」や、「多職種で支える高齢者のがん治療～私たちはこうやっています！（老年腫瘍 WG）」など、チーム医療としてメディカルスタッフに有用です。
- 他にも「頭頸部癌診においてカンサーボードを使いこなすには？」、「抗がん薬の至適投与量と臨床薬理学」、「電子デバイスを用いた患者報告アウトカムをいかに活用するか」、「あらためて在宅医療機関とのシームレスな連携を考える」、「がん治療と運動療法」、「ハザーダスドラッグ曝露対策の最前線」、「治癒不能ながんを持つ認知機能が低下した高齢患者への薬物療法と多職種連携」、「がん薬物療法における皮下注 - 温故知新-」、「がん医療における患者・市民と医療者とのコミュニケーションを考える」などもあります。
- 希少がん、希少フラクションの創薬や供給に関するシンポジウムも複数あり、メディカルスタッフにも大きく関連します。職業生薬剤暴露の研修会、CRC のためのアドバンスセミナーも予定しています。

なお、[メディカルスタッフの参加登録費は医師の半額となっています](#)。ご参加をお待ちしています。

【Q13】 メディカルスタッフ会員入会の手続き

メディカルスタッフの JSMO の入会にあたり、協議員の推薦を受けることが入会のハードルとなっていますが何か対応はありますか？

【回答】

<回答者：鶴谷 純司 会員委員長>

がん診療における多職種連携は極めて重要な医療基盤です。これらを育むために、医師のみならずメディカルスタッフの入会を促進し、多職種が触れ合い、学ぶ機会を提供したいと考えています。

本冊子の最後にも記載しましたが、JSMO 会員委員会での検討を踏まえ入会制度を見直し、メディカルスタッフの入会のハードルとなっていた入会申込時の協議員による推薦を 2026 年 1 月より不要としました。今後は入会ポリシーへの同意を前提に新規入会手続きを簡略化し、より多くの方が円滑に入会できる体制を整えています。

【Q14】 メディカルスタッフ会員数増加にむけて

がん薬物療法に関する多職種連携を進めるうえでメディカルスタッフ会員の JSMO への参画は今後益々重要になると思われます。メディカルスタッフ会員に対して、JSMO への入会や総会参加を促すうえで、有効だと考えられるアピールポイントは何だと思われますか？

【回答】

<回答者：南 博信 理事長/将来構想委員長>

定款にありますように、JSMO の視線はあくまでもがん患者さん・公共の福祉であることをご理解いただき、その趣旨に賛同いただける方には広く会員となっていたいただきたいと思います。そのために今までの学術集会でのメディカルスタッフ対象の企画は日本語を基本とし、メディカルスタッフの会員が多い学会との共催セミナーなどを実施してきましたが、これからも最新の情報を日本の実情に合わせて提供していきたいと思えます。

【重要なお知らせ】 JSMO 会員入会に協議員推薦が不要となりました

これまで会員アンケート等においてもご意見を頂戴しておりました「協議員による推薦」につきまして、本会の目的および事業にご賛同いただける皆様に、より広くご入会いただけるよう、会員委員会における検討も踏まえ、入会制度の見直しを行いました。

これに伴い、これまで入会申込時に必須としておりました協議員による推薦につきましては、2026年1月17日より不要となりました。

なお、入会申込に際しましては、入会ポリシーをご確認のうえ、同意のチェックを行っていただくことといたします。本改定により、新規入会手続きの簡略化を図るとともに、当学会の活動に関心をお持ちの方々が、より円滑にご入会いただける体制を整えております。つきましては、会員の皆様のお近くに JSMO にご関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、下記の入会案内リンクをご共有のうえ、ご紹介いただけましたら幸いに存じます。

今後とも当学会の活動にご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

◆JSMO 会員入会申込は[こちら](#)または以下 QR コードからアクセスできます



2024-2026年度 JSMO 会員委員会

委員長： 鶴谷 純司（昭和大学 先端がん治療研究所）

副委員長： 駄賀 晴子（大阪市立総合医療センター）

委員： 大木 恵美子（ノバルティスファーマ株式会社）

柏田 孝美（近畿大学病院）

川上 賢太郎（川上内科医院）

北川 善子（九州がんセンター）

小林 規俊（横浜市立大学附属病院）

丸田 雅樹（愛媛大学医学部附属病院）

森田 佐知（名古屋大学医学部附属病院）